

令和4年度事業計画（案）

1. まちづくり方針や戦略プロジェクトの検討（継続）

「山形市中心市街地活性化戦略本部」より示されたまちづくり方針や戦略プロジェクトの課題・問題について、事業内容や実施手法等の検討を行う。また、戦略プロジェクトの記載内容について、事業の進捗状況に合わせ変更を行う。

2. やまがた街なか出店サポートセンター事業（継続）

新規出店希望者を支援し、中心市街地エリアに魅力的な店舗を出店させることにより、来街者の増加や回遊性・滞留性の向上を図るため、以下の取り組みを行う。

(1) 空き店舗・空き事務所の情報収集

不動産事業者や所有者と連携し、不動産情報の収集と新規開拓

(2) 新規出店予定者への情報提供及び相談

空き店舗や駐車場、中心市街地の商業トレンドなどの出店の際の参考となる情報を提供

(3) 各種支援制度の紹介・事業計画作成支援

出店の際に活用可能な融資や補助制度などの支援制度の紹介
事業計画書の作成支援

(4) 中心市街地エリア内の業種毎の収益状況調査・分析

商業トレンドの把握と業種業態毎の収益状況調査の実施

(5) 出店しやすい家賃設定に向けた交渉

家賃について、借り手側と貸し手側に乖離がみられる場合に、不動産事業者等を通じ、出店しやすい家賃設定に向けた交渉の実施

(6) 出店者に対するフォローアップ

商工会議所経営指導員と連携し、収益状況等の確認等の実施

(7) 中心市街地エリア内の既存店舗に対する後継者・事業承継状況調査

既存店舗に対して、将来にわたり営業を継続する店舗となるかどうかの確認を目的とした後継者及び事業承継予定の状況調査を実施

(8) テナントリーシング事業の実施

〈主な取り組み〉

- ・外部専門家からの指導によるテナントリーシング実施に向けた人材育成
- ・出店意向のある企業をはじめとする山形市へ誘致したい企業との関係性の構築
※出店条件のヒアリング、情報の提供（物件情報、トピックス、支援制度など）
- ・企業訪問による誘致交渉や意見交換
- ・テナントリーシングに対する関係団体（不動産事業者、金融機関、商店街、商業施設）との情報交換

3. 街なか情報発信事業（継続）

中心市街地エリアの魅力的な情報を積極的に発信することにより、来街者の増加や回遊性・滞留性の向上を図る。

近年は、SNS の情報をきっかけに欲しいものや食べたいもの等を探す・調べる行動が目立つため、SNS を軸とした情報発信を強化することでフォロワー数の増加を図る。また、既存のサイトは街なかの情報収集をする際に有益な情報が得られるツールとなるよう情報量を充実していく。

〈主な取り組み〉

- ①店舗の商品や料理、街なかのイベント等のトピックスの積極的な投稿
- ②定期的なハッシュタグ企画の実施
- ③インスタグラムを活用したフォトコンテスト等のイベントの開催
- ④フェイスブックとの連携による幅広い年齢層への情報発信
- ⑤学生等と連携し、投稿数の増加を図れる仕組みでの情報発信

4. 各種調査事業（継続）

より効果的な事業の実施に向け、中心市街地の現況把握のための各種調査を必要に応じて実施する。

〈想定する調査〉

- ・ 駐車場調査
- ・ 業種構成調査
- ・ 市民アンケート調査
- ・ 歩行者通行量調査

5. すずらん商店街における老朽建物の整備改善事業（継続）

老朽化が進むすずらん商店街の整備改善を図るため、すずらん商店街の地権者や街区周辺の地権者に対する意向調査の結果を基に、再整備等の検討を行える可能性のある街区毎に検討を進めていく。

また、定期的な勉強会を実施し、地権者の再整備への意欲を醸成しつつ、再整備の実現性の高い街区をモデル街区に設定し、事業計画や事業試算等を示しながら進めていく。

6. かすみ公園周辺エリアにおける新たなまちづくり事業（継続）

かすみ公園周辺エリアは、山形駅から商店街への続く動線上の重要な位置にあるため、一定規模の商業機能の確保・都心機能の充実を図る必要がある。

改めてエリア内の地権者の意向を確認し、事業化が進展するよう関係団体との調整を図っていく。

7. 新たな決済サービスの展開と地域電子マネー・地域ポイントの推進（継続）

中心市街地エリアのキャッシュレス決済の普及により、店舗の業務効率化や、消費者の利便性の向上、さらには非接触型決済による感染症に強いまちづくりの推進を図る。

キャッシュレス決済端末モデル事業の結果を収集し、整理を行った上で、導入側、利用者側双方に利便性を感じられるキャッシュレス環境を構築できるよう検討を行う。

また、駐車場におけるキャッシュレス化や共通駐車券ポイント事業等の導入に向け、関係組織で構成する検討委員会を立ち上げ、事業展開の検討を行う。

8. 中心市街地エリアにおける昼間交流人口増加の促進（継続）

中心市街地では昼間に営業をしている店舗が少なく、空き店舗と合わせると中心市街地の34%の店舗が昼間に閉まっている状況である。昼間に営業する店舗の増加を促すためには昼間交流人口の増加を図る必要があることから、以下の取り組みを行う。

〈主な取り組み〉

- ①街フェスの実施（街なかバル含む）
- ②ランチマップの作成

9. ウォーカブル推進事業（新規）

山形市が「ウォーカブル推進都市」として、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり（ウォーカブルなまちづくり）を進めることで、人々が憩い、集い、多様な活動を繰り広げられる場づくりを行っていることに併せ、来街者の回遊性・滞留性の向上を図るため、以下の事業を実施する。

(1) 山形駅前大通りテラス化事業

山形駅前大通りの歩道部分をテラス化し、人々が憩い、集い、多様な活動を繰り広げられる場を創出することで、来街者の増加や回遊性・滞留性の向上を図る。

【事業概要】

山形駅前大通りの歩道部分にテーブルや椅子、パラソル等を設置し、通り全体をテラス化することで、来街者の滞在空間を創出する。

【実施予定時期】

令和4年4月～10月（予定）

〈参考〉

すずらん商店街では、令和3年度に実施した社会実験の結果を踏まえ、コストの効率化を図り事業の定着を目指すため、商店街主体で歩車道のテラス化事業を実施する。

事業名：魅力的な歩行者空間創出のための「歩車道のテラス化」事業

日程（予定）：テラス化事業（通年）

ウォーカブル推進事業 令和4年8月～9月の期間で4日程度

(2) オープンスペースを活用した滞留空間創出事業

山形市が実施するオープンスペースを活用した滞留空間創出の実証実験と連携し、中心市街地内のオープンスペースを活用した取り組みを実施し、来街者の回遊及び滞留を促すことで消費活動の促進を図る。

【事業概要】

山形市役所敷地内をはじめ、中心市街地のオープンスペースにキッチンカーなどを配置し、街なかを回遊したくなる仕掛けを行うことで、来街者の滞在時間の延長を促す。

【実施予定時期】

令和4年9月（3週間程度）～積雪期（1週間程度）を予定

10. 山形エリアマネジメント協議会と連携する法人の検討（継続）

今後、ハード系の事業の推進に合わせ、事業全体の進捗状況や推進するための手法を念頭に置きながら、法人の在り方について検討を進める。